

くすりのしおり

620002520

2007年5月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：スルピリド細粒 10%「アメル」[中枢神経用剤]

主成分：スルピリド（Sulpiride）

剤形：白色の細粒剤

シート記載：

**この薬の作用と効果について**

脳内の伝達物質（ドパミン）に作用することにより、低用量では抑うつ気分や、不安やいらいら感、やる気なくなるなどの症状の治療に用いられます。高用量では、不安、緊張、興奮をしずめて、精神状態の安定化に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。下垂体の腫瘍（プロラクチノーマ）がある、副腎の腫瘍（褐色細胞腫）の疑いがある。
- ・ 妊娠または授乳中
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ **あなたの用法・用量は** ：医療担当者記入 **▶**
- ・ 通常、成人は1日 1.5～3g（主成分として 150～300mg）または1日 3～6g（主成分として 300～600mg）を数回に分けて服用します。治療を受ける疾患や年齢・症状により適宜増減されますが、1日 6g（600mg）または 12g（1200mg）まで増量されることがあります。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ 飲み忘れた場合は、気がついたときできるだけはやく飲んでください。ただし、通常飲む時間が近い場合は、忘れた分は飲まないで1回分をとばしてください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ・ 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・ 医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・ 眠気、めまい、ふらつき等があらわれることがあるので、車の運転、高所での作業、危険を伴う機械の操作などはしないようにしてください。
- ・ 飲酒により薬の作用が強くあらわれることがあるので、服用中の飲酒は控えてください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、パーキンソン症候群、乳汁分泌、女性化乳房、月経異常、睡眠障害、不穏、焦燥感、眠気、脱力感、倦怠感、口渇、発疹、そう痒感、浮腫などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 急激な発熱、手足のふるえ、筋肉のこわばり [悪性症候群]
- ・ けいれんが起こる [痙攣]
- ・ 胸が痛い、動悸、胸部不快感 [QT 延長、心室頻拍]
- ・ 体がだるい、食欲がない、皮膚や白目が黄色くなる [肝機能障害、黄疸]
- ・ 無意識の口のモグモグ運動や舌の回転・出し入れ運動、くちびるのふるえ [遅発性ジスキネジア]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・ 薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄については受け取った薬局に相談してください。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

くすりのしおり

620002520

2007年5月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：スルピリド細粒 10%「アメル」[消化器用剤]

主成分：スルピリド（Sulpiride）

剤形：白色の細粒剤

シート記載：



この薬の作用と効果について

中枢神経に作用して胃壁粘膜の血流を増やし、胃・十二指腸の粘膜の回復を助ける作用があります。通常、胃潰瘍・十二指腸潰瘍の治療に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。下垂体の腫瘍（プロラクチノーマ）がある、副腎の腫瘍（褐色細胞腫）の疑いがある。
- ・ 妊娠または授乳中
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ **あなたの用法・用量は** << >> **：医療担当者記入**
- ・ 通常、成人は1回 0.5g（主成分として 50mg）を1日3回服用しますが、症状により適宜増減されます。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ 飲み忘れた場合は、気がついたときにできるだけ早く飲んでください。ただし、通常飲む時間が近い場合は、忘れた分は飲まないで1回分をとばしてください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ・ 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・ 医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・ 眠気、めまい、ふらつき等があらわれることがあるので、車の運転、高所での作業、危険を伴う機械の操作などはしないようにしてください。
- ・ 飲酒により薬の作用が強くあらわれることがあるので、服用中の飲酒は控えてください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、月経異常、乳汁分泌、女性化乳房、不眠、眠気、めまい、ふらつき、口渇、胸焼け、悪心、嘔吐、便秘、熱感、倦怠感、発疹、浮腫、振戦（手足のふるえ）、舌のもつれ、焦燥感などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 急激な発熱、手足のふるえ、筋肉のこわばり [悪性症候群]
- ・ けいれんが起る [痙攣]
- ・ 胸が痛い、動悸、胸部不快感 [QT 延長、心室頻拍]
- ・ 体がだるい、食欲がない、皮膚や白目が黄色くなる [肝機能障害、黄疸]
- ・ 無意識の口のモグモグ運動や舌の回転・出し入れ運動、くちびるのふるえ [遅発性ジスキネジア]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・ 薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄については受け取った薬局に相談してください。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。